

地方創生「平成 27 年度地域活性化・地域住民生活等緊急 支援交付金」事業の実績について

A. 地域消費喚起・生活支援型

①プレミアム商品券発行事業

【交付決定額】 31,070 千円（総事業費 32,674 千円）

【基本目標・重要施策・基本的方向】

1 仕事をつくる－① 地域産業の活性化と働く場の創出－既存企業の支援

【概要】

地元消費の拡大、地域経済の活性化を目的に 20%のプレミアム付商品券を 14,000 冊
発行（千円券×12 枚） 総額 168,000 千円

【実施結果】

- ・運営主体 商工会 ・販売価格 1 冊 1 万円
- ・購入限度 10 冊（12 万円）／人
- ・予約申込 【第 1 回】 [町民]6 月 6 日(土)～・[その他]6 月 8 日(月)～
※先着順 予約完了 6 月 19 日(金)午後 5 時
【第 2 回 361 冊】 8 月 3 日(月)～8 月 14 日(金)
※抽選により購入者決定、一人一回 5 冊まで
- ・販売日 6 月 24 日(水)～（第 2 回予約分は 8 月 28 日まで）
- ・販売場所 町内 12 箇所（商工会館 1・公共施設 6・金融機関 5）
- ・利用期間 7 月 1 日(水)～12 月 31 日(木)
- ・取扱店舗 239 店舗（小売業 109[74%]・飲食業 41[77%]・サービス業他 89[54%]）
- ・お楽しみ抽選会 2 回実施（8 月・12 月） 応募総数 8,650 通 当選者総数 79 人
- ・商品券利用額 167,688 千円（利用率 99.81%）

【KPI】なし

【評価】

- ・全市町村でほぼ同時期に実施した本事業において、大型商業施設等を有しない自治体では販売に苦慮しているとの報道がなされていたが、当町では概ねの小売業、飲食業が取り扱う旨を事前に告知したことにより、利用者にとって魅力ある商品券になると認識され、約二週間で予約を完了することができた
- ・町民先行による複数施設及び土日の予約受付、公共施設や金融機関窓口を含めた予約券との引き換え販売方法は、大きなトラブルもなくスムーズに実施できた
- ・経済波及効果として利用者アンケート（回答 246 人）の結果、商品券利用を伴った消費総額は 185,098 千円、利用者のうち 22%が商品券利用をきっかけにいつもより高価な買い物をし、その特別な消費による新規の消費喚起額は 53,971 千円であった

【改善・方向性】

本事業は約半年という利用期限の中、域内の消費喚起に大きな成果があったと判断されるが、3 千万円規模の事業費を町負担で継続していくことは財政上難しい。財源確保と併せて販売上限冊数やプレミアム率などの検討を重ねるとともに、秋の経済対策では見送られたが今後の国の動向も注視していく。

B. 地方創生先行型

①地方創生総合戦略策定事業

【交付決定額】 5,327千円（総事業費5,327千円）

【概要】

まち・ひと・しごと創生法第10条において規定される「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略（笠松町まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の策定に係る支援業務委託（住民アンケート・会議運営支援・人口推計策定・計画書製本等）や審議会運営費等

【実施結果】

- ・戦略策定 平成27年10月29日
- ・審議会及び審議会委員 7～10月にかけて5回開催 13名

②歴史未来館の魅力向上に関する事業

【交付決定額】 8,070千円（総事業費8,071千円）

【基本目標・重要施策・基本的方向】

2 笠松に呼び込むー② 魅力創出等を通じた交流人口の増加ー観光・交流を促進する基盤の整備

【概要】

AR技術を活用した館内展示物等を紹介するコンテンツ及びそれらを表示するスマートフォン用アプリケーション（映像コンテンツ・まち歩き支援機能）を作成し、町の歴史や自然、産業、科学についての理解を深め、歴史未来館の魅力を向上させ、来館者の増加を図る

【実施結果】

- ・「笠松ナビ」運用開始 平成28年2月より[App Store][Google play]提供開始
- ・アプリケーションダウンロード数 423（H28.6.1現在）

【KPI】歴史未来館来館者8,600人

【H27実績】6,753人（H27.6.6開館）

【評価】

- ・科学や産業に関する展示物を追加してリニューアルした歴史未来館において、スマートフォンやタブレットを活用した展示物の解説は先進的な取り組みとして来館者に好評であった
- ・H28.7.23にはリニューアル後の入館者1万人を達成し、現段階で概ねKPIを達成している
- ・館内展示物の解説以外にも「まちめぐりガイド（5コース）」やARカメラを活用した「ナビ機能」も有しているが、認知度が低いと思われる

【改善・方向性】

本アプリケーションは2月に完成したばかりなので、引き続き配信・運用を継続する。認知度向上のためリーフレット等を活用し、様々な周知活動を行いダウンロード数の増加を図る。また、職員が容易に情報更新ができる管理システムであるため、表示する各種情報を最新に保ち、利用者の利便性向上に繋げていく。

③子育て家庭の防災対策強化事業

【交付決定額】 921 千円（総事業費 922 千円）

【基本目標・重要施策・基本的方向】

3 ひとを育むー① 安心して産み育てることができる環境整備ー子育て家庭の防災対策強化

【概要】

通常の被災者より多くの配慮が必要となる乳幼児や妊婦、児童生徒及びその保護者に対する防災意識を高める啓発事業や、乳幼児・妊婦・児童生徒が安全で安心して避難活動が出来る防災備品の整備を進め、防災面からも子育て世帯を支援する

【実施結果】

- ・ 防災講演会 9/27 開催（親子 219 人参加 中央公民館 講師：川上哲也氏）
- ・ 防災授業 6/17 開催（笠松小学校 6 年親子 102 人 講師：防災士河合秀三氏）
12/3 開催（松枝小学校 6 年児童 92 人 講師：防災士河合秀三氏）
- ・ 防災ハンドブック 2,200 部作成、小学生・園児（幼稚園児含）に配布
- ・ 防災備品 防災用ミルク沸かしセット（第一保育所）
防災ずきん（松枝保育所）
おでかけ避難車（下羽栗保育所）
防災紙芝居（笠松保育園）

【KPI】 子育て家庭の満足度 70%

【H27 実績】 99%

【評価】

- ・ 参加者アンケート結果より防災理解や災害に対する備えの重要性の認識が高まったとの割合が多く、講演会等の開催は防災意識の向上に効果があった
- ・ 乳幼児向けの防災備品の整備についても、保護者アンケートでは満足度が高く、事業継続の要望も多かった

【改善・方向性】

4 月の熊本地震を受け、全ての世代に対し防災意識の向上を図っていくことは行政の優先課題である。今年度も町防災士と連携して、全ての小中学校で防災事業を実施予定であり、児童生徒を通じた各子育て世帯への浸透を図っていく。また、乳幼児向けの防災備品整備については各保育所等と協議し拡充に努める。

④英語教育の拡充事業

【交付決定額】 11,448千円（総事業費11,448千円）

【基本目標・重要施策・基本的方向】

3 ひとを育むー① 安心して産み育てることができる環境整備ー特色ある環境づくり

【概要】

町内保育所（園）幼児、小学校児童、中学校生徒が活きた英語に触れ・学ぶことを目的にALTを派遣、授業のみならず生活場面を共有することで、より英語を話す力を培い、早くから国際コミュニケーション能力の習得を図る

【実施結果】

- ・実施日数
笠松中学校 197日
笠松小学校 60日 松枝小学校 78日 下羽栗小学校 59日
笠松保育園 11日 松枝保育所 11日 下羽栗保育所 11日

【KPI】園児・児童・生徒の満足度アンケート70%

【H27実績】中学生84.4% 小学生93.6% 保育所100%（保護者・保育士）

【評価】

- ・本事業より追加した保育所派遣は1回あたり1時間弱と短い時間であるが、ALTが準備する音楽やカード、おもちゃ等により子ども達は興味を持って熱心に英語を使おうという姿勢がみられ、幼少より英語に慣れ親しむところに大きな効果があった
- ・継続して実施している小中学校へのALT派遣についても、児童生徒のアンケート結果より英語の授業や活動が楽しいとの割合が高く、ネイティブスピーカーの参加により充実した内容となっている

【改善・方向性】

今後ますますグローバル化が加速していく中、英語習得の重要性はますます高まっている。また、2020年に実施予定である小学校における英語の「必修化」「教科化」に向けALTを活用した授業内容の検討など、引き続き本事業を継続して、英語教育の充実を図っていく。

⑤歴史・文化・清流ネットワーク回廊推進事業

【交付決定額】 10,000 千円（総事業費 10,030 千円）

【基本目標・重要施策・基本的方向】

- 2 笠松に呼び込むー② 魅力創出等を通じた交流人口の増加ー観光・交流を促進する基盤の整備

【概要】

笠松町が持つ歴史・文化・清流木曾川（自然・サイクリングロード）の魅力を発信し、レンタサイクルを活用してそれぞれのアクセスを容易にすることで、人の流れを呼び戻し、活気あるまちづくりを推進する

【実施結果】

- ・実施方針 「プレ実験」として位置付けをし、今年度以降の社会実験を経て本格実施に向けた導入計画を検討していく
- ・期 間 平成 28 年 3 月 5 日(土)～ 30 日(水)26 日間 午前 10 時～午後 5 時迄
- ・運 営 笠松町及び笠松町レンタサイクル社会実験運営協議会（委員 7 人）
- ・運営補助 大同大学 工学部建築学科都市交通計画研究室・シルバー人材センター
- ・貸出返却 笠松駅（ふらっと笠松）・みなと公園あずまやの 2 箇所
- ・自転車数 笠松駅（ふらっと笠松）：①大人用通常 4 台 ②アシスト付き 2 台
みなと公園あずまや：①大人用通常 1 台 ②チャイルドシート付き 2 台
③大人用クロス 2 台 ④幼児用補助付き 2 台 ⑤幼児用補助無し 2 台
⑥児童用クロス 2 台 ⑦アシスト付き 1 台
⑧ユニーク自転車 3 種「3 人乗りタンデム」「車イス自転車」
「3 輪ローレーサー」（公道不可、みなと公園内のみ）
- ・利用料金 無料、デポジット（保証金）200 円を徴収しアンケート記入後に返却
- ・クーポン 利用者に町内店舗で当日と翌日限り有効のクーポン券を配布、9 店舗協力

【KPI】 レンタサイクル利用者数 100 人 クーポン券の利用枚数 200 枚

【H27 実績】 笠松駅（ふらっと笠松）のべ 68 人 ・ みなと公園あずまや のべ 532 人
クーポン利用 163 枚 金額 39,200 円

【評価】

- ・利用料が無料であったため利用者 KPI を大きく上回ることができ、多くの利用者アンケートや利用軌跡 GPS データも集積できたことは、次年度以降の社会実験に今回の結果を活用することができ、プレ実験として成果があった
- ・アンケート結果よりみなと公園及びサイクリングロードのみのレクリエーション利用が圧倒的に多く、目的のひとつであったまちなかへの誘引はあまり実現できなかった
- ・コミュニティサイクル（どのポートでも乗り捨て可能）の要望あり

【改善・方向性】

28 年度は 3 ヶ月間、29 年度は 6 ヶ月間の社会実験を実施し、30 年度に通年の本運用を目指す。「地方創生推進交付金」対象事業として 3 ヶ年計画を 5 月に申請済み。